

救急レジデントマニュアル 第6版

堀進悟 監修 佐々木淳一 編

『救急レジデントマニュアル』が5年ぶりに改訂されたのでご紹介したい。本書は、慶大病院救急部初代教授の相川直樹先生が初版を刊行され、堀進悟教授、そして佐々木淳一教授と、3代30年に及ぶ、慶大救急医学の、経験と英知が凝縮されたマニュアルである。日本の救急医学を臨床面のみでなく、研究面においてもリードしてきた、あの慶大救急医学の歴々が総力を挙げて執筆しているからこそ、エビデンスに基づいた格調高い教科書となっている。

本書は、ポケットサイズでありながら550ページを越す情報量がある。内容は、全10章に分かれており、まずレジデントの諸君が救急診療を行う際の心構えと基本的な診察法に始まり、次にERでよく経験する症候や疾患について、「鑑別・診断の進め方」「重症度の判定」「救急処置」などが、表やイラストを多用してわかりやすく親切に解説される。また、慶大が得意としている「外傷・熱傷」「中毒」に関しては、新たに章を立てて詳述している。さらに、マイナー診療科を含む各科救急疾患についても網羅し、救急関連の処置や検査については、使用する器具、手順、ピットフォールまで丁寧に解説している。最終章では脳死や災害医療、医療安全、感染対策などにも触れてあり、もはやその射程はマニュアルを超えた広がりを持っている。

評者が本書を手にして最も感動した言葉は、第1章

の1行目だった。最後まで読み終わった後、もう一度読み返してみたいと思ったのも、やはり第1章だった。そこには「レジデントの心構え」と称して、身だしなみ、態度、言葉使い、患者・家族への対応などが書かれている。この部分を読んで評者は、「救急蘇生や手技を勉強する以前に、救急搬送された患者や家族を思いやる気持ちが最も大切で、それが欠如した者は、救急医療に携わる資格がない」というメッセージを受け取った。なぜなら、慶大病院救急部は、創立時からこの理念を貫き通してきたからである。

23年前、評者が救急業務実地修練で上京した折、指導を担当してくれた若い慶應ボーイを思い出した。彼は清潔な白衣に身を包み、キリッとネクタイを締め、救急患者に紳士的に寄り添い、この心構えをすでに実践していた。その彼が編集した書籍だからこそ、この第1章のあの1行目を堂々と明記することが許されるのである。救急医療を志す諸君には、ぜひ本書を愛読していただき、救急診療の具体的な手技やポイントのみならず、慶大救急医学に連綿と受け継がれるその真髓も味わってもらいたい。

国立病院機構熊本医療センター院長
高橋 毅

B6変型・頁594 2018年05月
定価：本体4,800円＋税
[ISBN978-4-260-03539-2] 医学書院刊